

Economic Indicators

発表日: 2020年9月16日(水)

貿易統計(2020年8月)

～輸送用機器を中心に輸出の持ち直しが続く、貿易収支(原数値)は2か月連続の黒字に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		原数値	季調値	輸出金額		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
				前年比	前年比								
19年	9月	▲1,291	▲726	▲5.2	▲1.4	▲2.3	▲4.0	3.7	▲6.0	6.7	▲1.0	8.8	8.1
	10月	112	▲1,097	▲9.2	▲14.7	▲4.4	▲6.7	▲8.4	▲7.1	▲6.1	▲7.6	▲10.3	▲7.0
	11月	▲884	▲1,729	▲7.9	▲15.6	▲5.0	▲9.7	▲10.3	▲2.7	▲8.1	▲1.4	▲10.6	▲8.5
	12月	▲1,591	▲1,307	▲6.3	▲4.8	▲1.9	▲11.4	▲7.4	0.5	1.2	▲5.0	2.5	0.5
20年	1月	▲13,151	▲2,268	▲2.6	▲3.6	▲1.6	▲8.9	▲9.1	▲1.5	▲1.7	▲19.9	1.2	0.3
	2月	11,066	4,236	▲1.0	▲13.9	▲2.4	▲4.5	▲9.7	▲0.9	▲17.3	▲11.1	▲8.5	▲25.0
	3月	72	▲2,269	▲11.7	▲5.0	▲11.2	▲15.9	▲9.1	▲10.5	▲2.5	▲1.8	▲2.6	▲2.6
	4月	▲9,312	▲9,522	▲21.9	▲7.1	▲21.3	▲36.9	▲27.7	▲11.8	1.5	4.2	▲0.2	5.6
	5月	▲8,413	▲5,524	▲28.3	▲26.1	▲27.3	▲49.4	▲34.8	▲11.4	▲14.6	▲22.8	▲26.3	▲8.7
	6月	▲2,729	▲3,733	▲26.2	▲14.4	▲26.9	▲47.0	▲33.0	▲17.7	▲0.8	▲12.7	▲6.2	0.0
	7月	109	413	▲19.2	▲22.3	▲21.9	▲21.5	▲36.7	▲11.3	▲14.0	▲28.0	▲12.6	▲10.8
	8月	2,483	3,506	▲14.8	▲20.8	▲14.9	▲20.1	▲27.5	▲7.3	▲11.6	▲22.4	▲15.1	▲7.5

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○輸出が3か月連続の増加、貿易収支(原数値)は2か月連続で黒字を維持

財務省より発表された8月の貿易統計によると、貿易収支は+2,483億円の黒字(コンセンサス:▲200億円の赤字、レンジ:▲1,966億円の赤字～+1,500億円の黒字)となり、コンセンサスを大幅に上回る結果となった。輸出金額は前年比▲14.8%(コンセンサス:同▲16.0%、レンジ:同▲22.8%～同▲8.3%)、輸入金額は同▲20.8%(コンセンサス:同▲17.8%、レンジ:同▲29.8%～同▲7.8%)と、輸出入ともに7月から前年比での下げ幅を縮小させた。

品目別にみると、輸出については、自動車(前年比▲19.4%)、鉱物性燃料(同▲69.8%)などが減少に寄与している。自動車については、前年比で大幅な減少が続いているものの、7月から下げ幅を縮小させている(7月:同▲30.0%)。輸入については、原粗油(同▲52.5%)や液化天然ガス(同▲44.2%)、石炭(同:▲42.3%)などの大幅な減少が続いており、輸入の頭を押さえている。

季節調整値でみると輸出金額は前月比+5.9%、輸入金額が同+0.1%となった。7月から輸出が大きく増加した一方、輸入が小幅な増加にとどまった結果、貿易収支は3,506億円の黒字と7月(413億円の黒字)から黒字幅が大きく拡大した。

8月は7月に引き続き輸出の持ち直しが続いた。各国での経済活動再開が進んでいることに加え、中国向け輸出が前年比+5.1%(7月:同+8.2%)と前年を上回る水準で推移しており、輸出を下支えしている。一方、輸入については、原油価格など燃料価格の低迷を受け、底這いの動きとなっている。

○実質輸出は前月比+7.3%、輸送用機器を中心に2か月連続で大幅に増加

為替などの価格変動の影響を除いた8月の実質輸出(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)は、前月比+7.3%(7月:同+6.0%)と3か月連続で増加した。自動車等の輸送用機器(同+11.2%)や半導体や通信機等の電気機器(同+8.0%)など幅広い品目が増加に寄与しており、5月を

底に実質輸出は持ち直しが続いている。

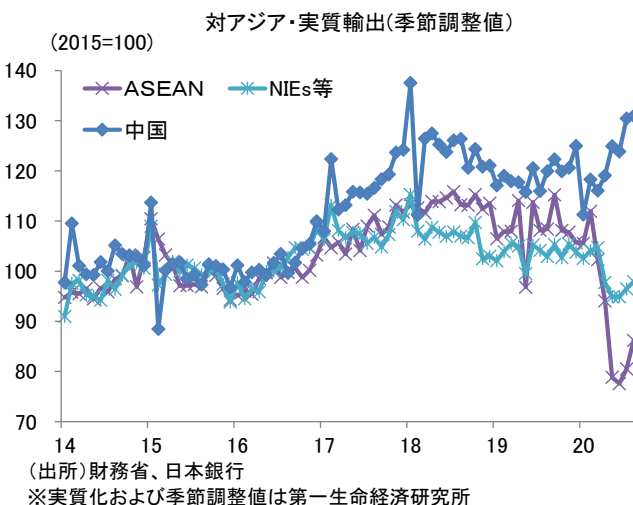
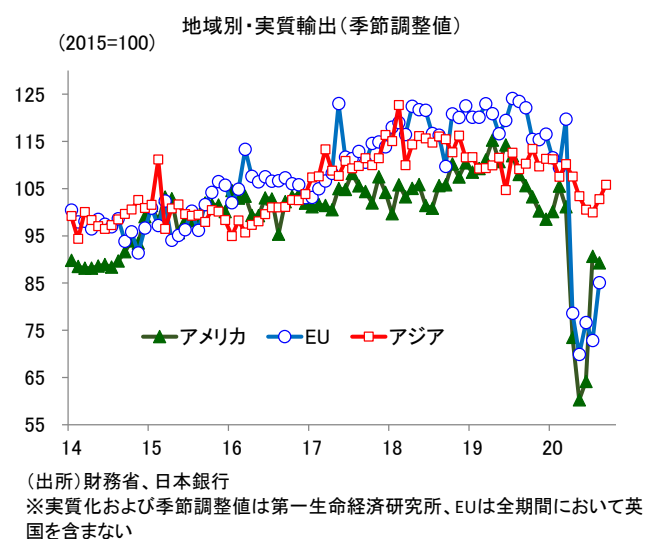
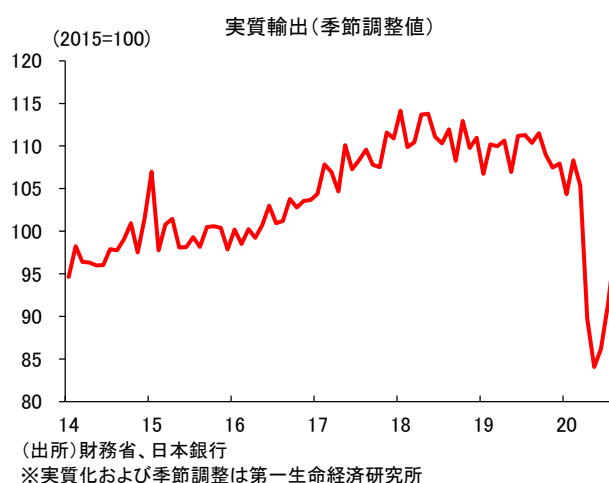
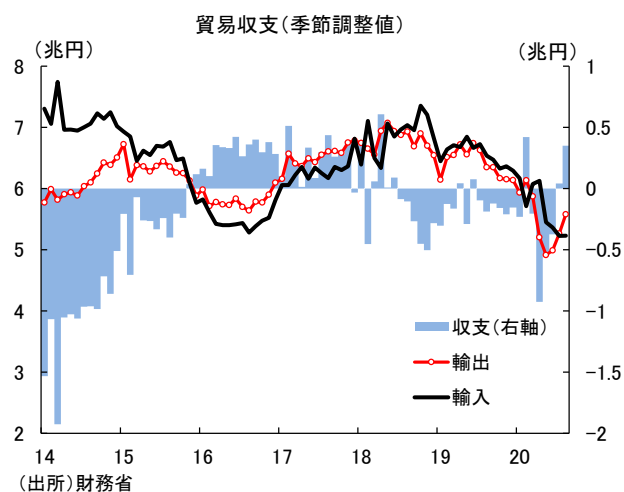
国、地域別にみると、EU 向けが前月比+22.4%と輸送用機器を中心に大幅に増加、7月の減少から増加に転じた。また、アジア向けが同+3.0%、中国向けも同+0.4%と増加が続いている。一方、7月に大幅に増加した米国向けが同▲1.6%と減少に転じた。

○今後も輸出の持ち直しは続くが、持ち直しのペースは徐々に鈍化

8月の貿易統計は、各国での経済活動再開が進んだことを受け、自動車など輸送用機器を中心に輸出の持ち直しが続いた。一方、輸入については、原油価格の低迷を主因に横ばい圏での推移となった。

世界各国で経済活動再開が進んでいることから、9月以降も輸出の持ち直しは続くと思われる。もっとも、世界経済は7-9月期に大幅な持ち直しが見込まれるも、その後の持ち直しは緩やかなものにとどまる見込みで、輸出の持ち直しのペースは徐々に鈍化していくと思われる。輸入については、原油価格の低迷が続いていることなどが下押し圧力となっており、7-9月期も前期比で減少する可能性がある。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続いていることや米中対立などリスクがあり、世界経済の先行き不透明感が強い状況は続く見通しだ。今後も経済活動に一定の制限が伴うことから、輸出入が感染拡大前の水準に戻すには長い時間を要するとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。